

令和4年度 第3四半期 (10月~12月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 2.1 ポイント改善、
令和3年度第3四半期からは 2.7 ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲12.5 (前期比+2.1、前年同期比▲2.7)、来期見通し (1月~3月) については▲8.3 (当期比+4.2) となった。

円安や原油価格高騰の影響が懸念された中、建設業、小売業、運輸業、サービス業では DI 値が前期比プラスとなった。しかし、原材料・エネルギー価格の高騰、深刻化する人手不足・採用難に加え、再び拡大の兆候をみせている新型コロナウイルスの感染状況も今後の懸念材料として挙げられる。

設備投資については、「実施した」との回答が 35.2 (前期比+6.1、前年同期比▲1.4)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 37.9 (当期比+2.7) となった。

■製造業

業況 DI 値は▲25.6 (前期比▲16.8、前年同期比▲16.7)、来期の見通しについては▲10.7 (当期比+14.9) となった。

IT 業界や食品関連では好調であるとの声が聞かれる中、全般的に原材料・エネルギー価格の高騰が収益を圧迫しているとの声が目立った。また、海外市場の停滞や長引く円安の影響、半導体等の不足や納期遅れ、高齢化に伴う技術者の確保難、滋養の停滞等を懸念する声も多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「原材料・人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は▲22.2 (前期比+13.3、前年同期比▲14.5)、来期の見通しについては▲22.2 (当期比±0.0) となった。

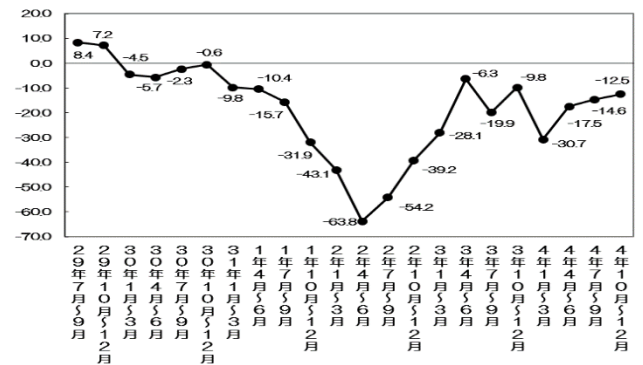
リフォーム・リノベーションは好調である、収益はそれほど見込めないものの受注はあり忙しい、との声が聞かれる一方で、全般的に建築資材・燃料費高騰、円安のため利益減が見られる他、人材の確保難、職人の高齢化や人手不足が深刻であるとの声が目立った。

経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」、「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」が主に挙げられる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)回答企業数：181社
- 調査期間
令和4年10月~12月
- 調査方法
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 77・建設業 27・卸売業 20
小売業 22・運輸業 12・サービス業 23

全業種



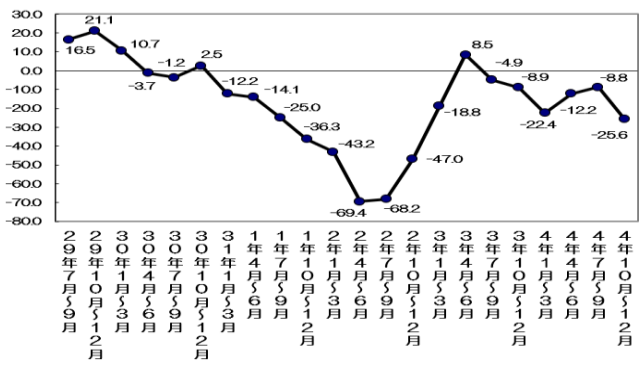
《A》前年同期 (令和3年10月~12月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	
19.0%	49.5%	31.5%	▲12.5%	↓

《B》来期 (令和5年1月~3月) の景況見通し

良い	同様	悪い	DI 値	
17.2%	57.2%	25.6%	▲8.3%	↑

製造業



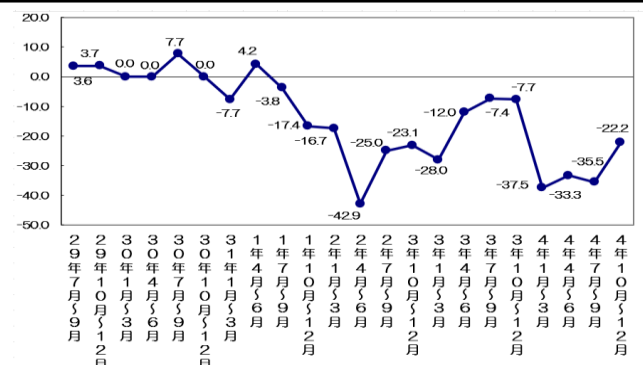
【前年同期比】 令和3年10~12月

自社の業況	▲25.6	↓
-------	-------	---

【来期見通し】 令和5年1~3月

自社の業況	▲10.7	↑
-------	-------	---

建設業



【前年同期比】 令和3年10~12月

自社の業況	▲22.2	↓
-------	-------	---

【来期見通し】 令和5年1~3月

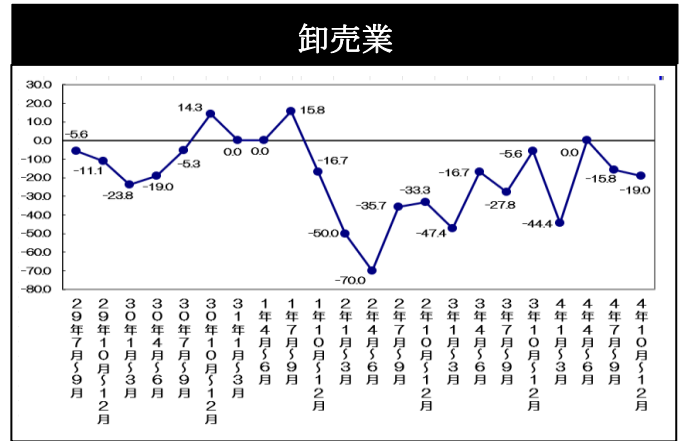
自社の業況	▲22.2	→
-------	-------	---

■卸売業

業況 DI 値は▲19.0（前期比▲3.2、前年同期比▲13.4）、来期の見通しについては▲23.8（当期比▲4.8）となった。

全般的に仕入単価上昇、円安や海外情勢の影響、経費増により利益確保が困難との声が聞かれた。厳しいながらも、回復の兆しは見え始めているとの声、行動制限の緩和や原油価格の落ち着きに期待したいとの声もあった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。



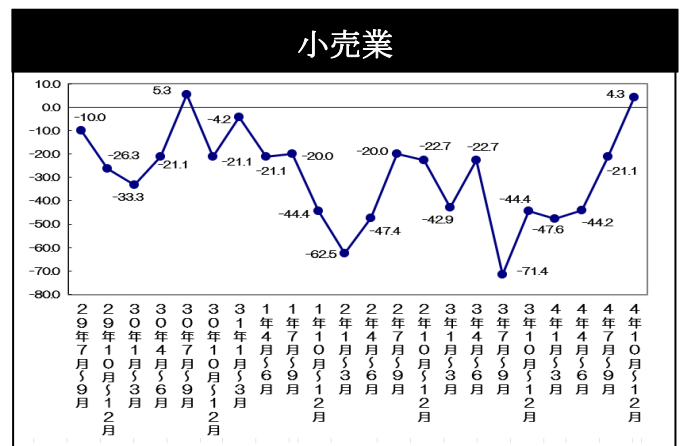
【前年同期比】	令和3年10~12月	▲19.0	↑	【来期見通し】	令和5年1~3月	▲23.8	↓
自社の業況				自社の業況			

■小売業

業況 DI 値は+4.3（前期比+25.4、前年同期比+48.7）、来期の見通しについては▲9.1（当期比▲13.4）となった。

全般的に仕入価格高騰、光熱費等諸経費の上昇、スーパーマーケットでは消費者の買い控えを懸念する声が挙がった。一方で、自動車販売店では、顧客の購買意欲が回復傾向にあるとの声、事務用品販売店やコンビニエンスストアでは受注・売上が増加したとの声もあった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。



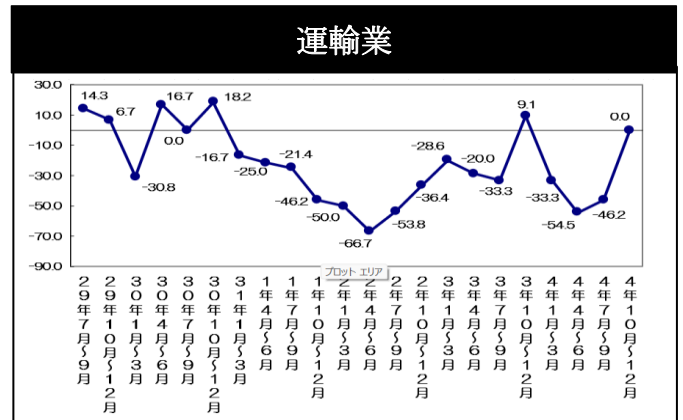
【前年同期比】	令和3年10~12月	4.3	↑	【来期見通し】	令和5年1~3月	▲9.1	↓
自社の業況				自社の業況			

■運輸業

業況 DI 値は 0.0（前期比+46.2、前年同期比▲9.1）、来期の見通しについては 0.0（当期比±0.0）となった。

輸送量の増加、値上げ交渉により運賃単価が上昇傾向にあり、売上は増えつつあるとの声が聞かれた。ただ、燃料費は高止まりの様相を呈し、インフレ対応のための人件費増加等もあって利益がなかなか伸びないとのことであった。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



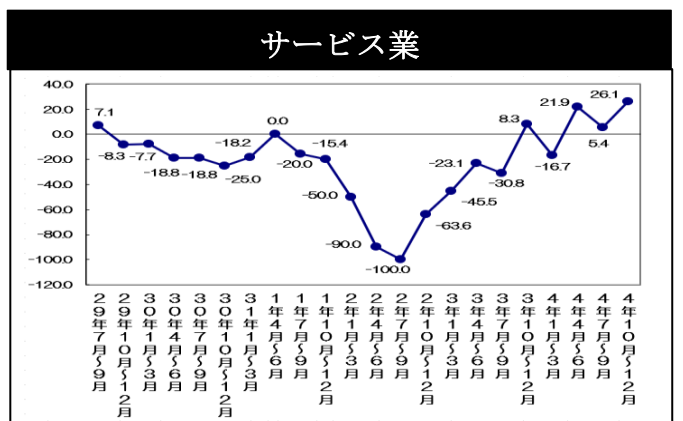
【前年同期比】	令和3年10~12月	0.0	↓	【来期見通し】	令和5年1~3月	0.0	→
自社の業況				自社の業況			

■サービス業

業況 DI 値は+26.1（前期比+20.7、前年同期比+17.8）、来期の見通しについては+26.1（当期比±0.0）となった。

イベント関連・観光業では人の動きが徐々に活発となり回復傾向もみられるが、飲食業では依然コロナの感染状況次第であるとの見解であった。全般的に人件費増加・採用難を問題視する声が多く、受注はあっても人手が足りないとの意見が聞かれた。また、DX 推進を課題として挙げる声もあった。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「仕入価格の上昇」、「人件費の増加」が主に挙げられる。



【前年同期比】	令和3年10~12月	26.1	↑	【来期見通し】	令和5年1~3月	26.1	→
自社の業況				自社の業況			